



1921-2021

⑩ 旅行の楽しみ「駅弁」

美濃太田駅の駅弁のお話です。古くから中山道で旅籠を営んでいた「磯谷屋」が大正12年に美濃太田駅前に移転し、旅館業の傍ら大正13年より駅構内で販売したというのが美濃太田駅の駅弁の始まりとされています。駅弁の容器の上に掛けられている昭和初期の「掛け紙」が残されており、その裏に弁当の内容が書いてありました。それを見ると、卵焼き、魚、タケノコの煮物、つくだ煮など品数豊富な弁当だったようです。

また、「掛け紙」には名所の風景画などが描かれていますが、ほかに購入者のご意見欄があり、観光のアンケート用紙としての役割もありました。

昭和30年に向龍館が駅弁の販売を開始し、昭和34年から「松茸の釜めし」を売り出して大ヒットします。当時は駅のホームでの立ち売りがメインで、最盛期には売り子さんが3人、弁

当は1日300個以上売れたそうです。

美濃太田駅は乗換駅で、列車の停車時間も長く、乗客は、客車の窓から売り子さん呼びび弁当などを購入しました。その後、向龍館の駅弁は、残念ながら令和元(2019)年に美濃太田駅での販売が終了となりました。

また、昭和29年頃には、鉄道弘済会が菓子やたばこなどの立ち売り販売をしていました。



▲美濃太田駅で販売されていた駅弁の掛け紙

※「鉄道のまち—美濃太田駅開業100年—」の掲載は今号をもって終了します